

やっと過ごしやすい季節になりました。早春からのコロナ禍の中でいつもと違う暮らしを強いられているうちにカレンダーの残り枚数も少なくなっていました。

イクメンは名もなき家事ができてから

上の句は今年7月にオリックスが発表した第4回「働くパパママ川柳」の大賞作品です。“イクメン”は今ではすっかり言葉として定着していますが、積極的に育児に参加して楽しむ男性のことですね。また、“名もなき家事”とは、「掃除」「洗濯」「料理」のように具体的な名称のない作業のこと。ごみの分別や脱ぎっぱなしの服の片づけ、トイレトペーパーの補充のような細々とした作業を言うそうです。2017年に住宅メーカーの大和ハウス工業(株)が「共働き夫婦の『家事』に関する意識調査」の中でこうした作業が「名もなき家事」として紹介され広く知られるようになりました。この調査によると、夫の多くは「名もなき家事」を家事だと認識しておらず、そのほとんどを妻が担っている実態が明らかにされて女性の共感を呼んだということです。共働き、育児休業中、ママが育児・家事に専念、中にはパパが育休中など、ご家庭によって状況はいろいろでしょう。しかし生活している限り「名称のある家事」はもちろん、「名もなき家事」はどのご家庭にもたくさんあるはず。それを家族内でどう分担していくか、合理的に減らせることはないか、また、こどもにできることはどう教えて生活力のある子に育てていくか、考える必要があります。家で過ごすことが多い今年、一層、そう感じるのではないのでしょうか。



上の大賞作品を見た私の妹は次の句を詠みました。

イクメンを ほめて育てる 道けわし

それを自分の娘(5歳と1歳の母、7月から仕事に復帰)にラインで送ったところ、次の句が返ってきたそうです。

イクメンを 育てることは できません

言われたことを手伝うのではなく、もっと主体的に一緒に育児をして欲しいという希望の現れの句のようです。

あなたも「子育て川柳」、一句いかがですか？

